広報 いぬやま
2012 1/15 Jan. No.1130
人が輝き　地域と活きる　“わ”のまち　犬山

楽田の追分け

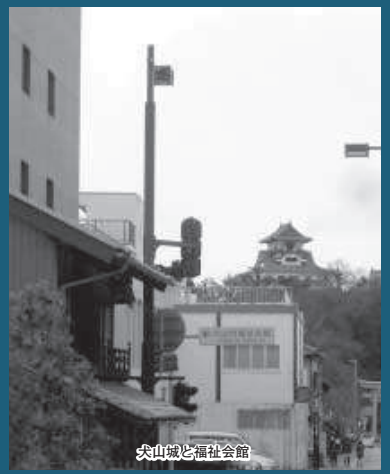
城下町と楽田

まちづくり講演会

まちづくりはエンドレス（終わりのないこと）です。犬山のまちづくりは、地域によっては一見完成したように見えますが、よく見ると「まだまだ」です。

城下町と楽田の両地区で、識者によるまちづくり講演会が開かれました。城下町では、犬山市景観シンポジウムの一環としてシンガーソングライターのなぎら健壱氏による「まちの魅力を探して歩く」、楽田では都市計画や市民主体のまちづくり論の権威である東京大学の西村幸夫教授による「歴史まちづくりセミナーin楽田」。

どちらの講演も、住民ではなかなか気づかない興味ある講演内容でしたので、要旨を紹介します。


犬山城と福祉会館

珍しい「起（むく）り屋根」

なぎら健壱氏

東京では「お城と城下町」という風景がなく、ここは大変貴重であり珍しい。本町通りを歩いて目につくのは福祉会館で、城下町という風景に似合わない建物。先住権があるが、これからの課題です。

北小の瓦のある塀はすばらしい。裏側を見ると、かなり違うと思うが、周囲との統一感がいい。居住と商売の家と混在しているところもあり、戸惑うこともありました。また取り壊された跡地をどう活かすか注目しましょう。

大本町通りの路面は美装化されすばらしいが、電線が気になります。中本町の旧磯部邸の起り屋根は、見たことがなく、作った人も大変だ。

古いものと新しいものとのバランスや利便性については、大変難しい。観光客を呼ぼうという相矛盾した考えがあるから。「有名になればいいや」と「止めてくれ」という声が融合するため、難しい。観光主体か生活主体か、城下町は両立しようとしている。

旧磯部邸の起り屋根

街路灯の灯りがオレンジ色に統一されており、すばらしい。古い建物を大切にして、観光客を呼び込んでいる。口コミで集客しており、リピーターをつくることは重要だ。「一回金を落としてくれればいい」という考えではダメ。外部からの意見を聞くこと、参考にすれば、まちはもっとよくなります。

すばらしい追分街道

西村幸夫教授

楽田は元気のあるまちで、まちづくりが盛んなところ。城下町だけでなく、市全域がすばらしく、祭りなどを含め大切にしていこう。

稲置街道と木曽街道に分かれる追分の分岐点は、歴史的に見てすばらしい。同じ時期に、同じ道幅で、歩く道としてすごく感じがいい。当時は幹線で、今も大事な道です。

全区間、緩やかに曲がっており、歩くと景色が変わる。旅人はこの先、どんな風景があるのか興味がわき、疲れない。戦国時代の道がそのまま残っている感じで、これからも大切にしたい道です。

しかし隅の方に当時の道標がひっそりと隠れている。4本もあるのは珍しいので、元の所にあれば、もっと素晴らしい。

古墳の背後の白いビル

大縣神社の参道は、東側の本宮山のある山側から西へ下りて行っており、山、斜面の丘、河岸段丘、平地部の4つに区切られ、それぞれを大切にしているまちづくりがうかがえる。本宮山は聖なる山であり、もう一度光を当てることが大切だと思う。

青塚古墳を見ると、背後の西側に高いビル（大口町）が見える。会社のカラーは青だが、白くうっすらと見え、持ち主の会社へ行って「色を配慮してほしい」とお願いに行ったと思われ、素晴らしいことです。（文責・山田）